

科目名	ファッションデザイン	学年	1年	使用教材	【教科書】ファッションデザイン 文部科学省
		必修・選必・コース選			【副教材】AFT 色彩検定 3級編
		単位数	3単位		

学習目標

ファッションデザインの基礎、発想と表現法などに関する知識と技術を習得させ、ファッションを創造的にデザインする能力と態度を育てる。

学習方法

- 実践的・体験的な学習活動を通して、ファッションデザインに関する分野を科学的・総合的にとらえていくことに努める。
- 実際の生活に生かせるよう、学んだことを自分自身の問題ととらえ、ファッションデザインの知識・技術をよりよくするための工夫を考え、実践する。
- 授業で活用するワークシートを上手に活用して、学習が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組む

学習評価

- 次の3つ観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。

知識・技術	ファッションデザインの基礎、発想や表現の方法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	ファッションデザインに関する課題を発見し、ファッション産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に取り組む態度	ファッション産業の発展を目指して自ら学び、ファッションの創造的なデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

- 学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリエンテーション ○ 第1章 ファッションデザインの意味 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1節 デザインとは何か <ul style="list-style-type: none"> 第1 デザインの本質 第2 デザインの3分野 第3 ファッションとデザイン ○ 第3章 ファッションデザインの発想と表現 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2節 ファッションによる表現 <ul style="list-style-type: none"> 第1 材料・用具 第2 プロポーション 第3 基本体の描き方 	<ul style="list-style-type: none"> ○ファッションデザインの造形的要素の形態、文様、材質感をファッションイメージと関わらせて具体的に理解させ、まとめ方を演習や実習を通して体験的に理解させ、ファッションのデザイン感覚を養う。 ○デザインの発想をファッション画や各種材料によって表現する手法を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書、ワークシート、実験、実習、演習等を通して、ファッションデザインの造形的要素やファッション画に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、より美しく創造的にファッションデザインができるようにする。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【進捗表】 【自己評価】【作品】
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2章 ファッションデザインの基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2節 ファッションデザインと色彩 <ul style="list-style-type: none"> 第1 色彩の基礎 第2 色の三属性とカラーシステム 第3 色の見え方と働き 第4 色とイメージ 第5 配色の基本と調和 第6 色彩とファッションイメージ 第7 流行色と基調色 ○ 第3章 ファッションデザインの発想と表現 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3節 各種素材による表現 <ul style="list-style-type: none"> 第1 トワールによる立体裁断 第2 実物布による立体裁断 第3 パターンメイキング 第4 ピンワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ○色彩の三属性と色調、配色の基礎について理解させる。また、色彩のもつイメージや色に対する感情など、色彩心理も扱う。ファッションイメージと関連させながら、感性を高めるようにする。 ○紙や布などの様々な材料を使った表現方法を理解させ、ピンワークなどのテクニックを用いてデザイン表現ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書、ワークシート、実験、実習、演習等を通して、ファッションデザインの色彩やピンワーク等に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、より美しくファッションデザインができるようにする。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【進捗表】 【自己評価】【作品】
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第4章 デザインの目的と発想 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1節 デザインの目的を明確にする意義 ・ 第2節 デザインの目的と問題点の発見 <ul style="list-style-type: none"> 第1 生活場面と衣服 第2 着用者と衣服 第3 生活を取り巻く環境と衣服 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の発想をデザインへ展開する過程を体験的に理解させ、アイデアやイメージをファッションデザインに展開できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ファッションデザインの発想に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【進捗表】 【自己評価】【作品】

科目名	ファッション造形基礎	学年	1年	使用教材	【教科書】ファッション造形基礎 実教出版						
		必修・選必・コース選			【副教材】						
		単位数	4単位								
<p>学習目標</p> <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ファッション造形を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知識及び技術】</p> <p>(2) 被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>(3) 衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】</p>											
<p>学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実践的・体験的な学習活動を通して、家庭や地域の被服製作の歴史や文化を科学的・総合的にとらえていくことに努める。 ○ 実際の生活に生かせるよう、学んだことを自分自身の問題ととらえ、被服製作の知識・技術をよりよくするための工夫を考え、実践する。 ○ 授業で活用するワークシートを上手に活用して、学習が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組む。 											
<p>学習評価</p> <p>○次の3つ観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技術</td> <td>被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td>被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td>主体的に取り組む態度</td> <td>衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。</td> </tr> </table> <p>○学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。</p>						知識・技術	被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	思考・判断・表現	被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	主体的に取り組む態度	衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
知識・技術	被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。										
思考・判断・表現	被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。										
主体的に取り組む態度	衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。										

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・被服教室の利用方法 ・裁縫用具の名称と使用方法 ○ 4章 洋服の製作 <ul style="list-style-type: none"> ・1節 製作の基礎 <ol style="list-style-type: none"> 1. 洋服とは 2. 布地の性質と扱い方 ・2節 製作例 <ol style="list-style-type: none"> 1. アウターパンツの製作 	<ul style="list-style-type: none"> ○被服材料や用具の種類と特徴について、実習を通して具体的に理解させ、製作する被服のデザインや着用目的に合った被服材料の適切な選択と取り扱いができるようにする。 ○手縫い・ミシン縫いの基礎的な技術を習得する。 ○アウターパンツの製作に関する理論と技術を理解させ、能率的・創造的に製作できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書、ワークシート、実験、実習等を通して、アウターパンツの製作に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、デザインや着用目的に適した被服材料を用いて創造的に製作を行う。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【進捗表】 【自己評価】
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5章 和服の製作 <ul style="list-style-type: none"> ・1節 製作の基礎 <ol style="list-style-type: none"> 1. 和服とは 2. 和服の素材と用具 3. 基本的な技法 ・2節 製作例 <ol style="list-style-type: none"> 3. 簡単和服の製作(じんべい) 	<ul style="list-style-type: none"> ○和服の構成や各部の名称及び寸法の関係等を実習を通して具体的に理解させ、製作する和服の素材や着用目的に合った適切な選択と取り扱いができるようにする。 ○じんべいの製作に関する理論と技術を理解させ、能率的・創造的に製作できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書、ワークシート、実験、実習等を通して、じんべいの製作に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、デザインや着用目的に適した被服材料を用いて創造的に製作を行う。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【進捗表】 【自己評価】
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4章 洋服の製作 <ul style="list-style-type: none"> ・2節 製作例 <ol style="list-style-type: none"> 3. ブラウス・シャツの製作 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブラウス・シャツの製作に関する理論と技術を理解させ、能率的・創造的に製作できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書、ワークシート、実験、実習等を通して、ブラウス・シャツの製作に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、デザインや着用目的に適した被服材料を用いて創造的に製作を行う。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【進捗表】 【自己評価】

※年間を通して、コロナ感染予防対策に対応（手洗い、マスク着用など）した指導を行う。

科目名	家庭基礎	学年	1年	使用教科書	家庭基礎 東京書籍
		必修（服飾デザイン科）			
		単位数	2単位		
学習の到達目標 1. 人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者との関わりと福祉，消費生活，衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 2. 学習した知識や技術を活かし，家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3. 家族や社会との共生を目指し，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。					
学習方法 ○ 実践的・体験的な学習活動を通して、科学的・総合的にとらえていく。 ○ 自分の生活から課題を見つけ、生活をよりよくするための工夫を考え、実践できるようにする。 ○ より深い理解を得て、知識・技能の修得・定着のために、家庭科食物調理技術検定の合格を目指す。					
評価方法 ○ 必要な知識を理解しているかを，随時，小テストや学期ごとの考査で確認する。 ○ 基礎的・基本的な技術の定着やその表現を，提出物や発表方法，生徒相互の評価，自己評価から判定する。 ○ 授業や実験・実習への参加態度や感想から，関心・意欲を評価する。 ○ 各項目における課題を，その解決に向けて思考し判断したかを，レポートや課題プリントから評価する。 ○ 家庭科食物調理技術検定の結果					
学習評価 ○ 次の3つ観点に基づき、学年末に5段階の評定に総括する。					
①知識・技術		人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などについて，生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現		家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を養う。			
③主体的に取り組む態度		様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。			

学期	章タイトル	節タイトル	時数	学習のねらい	
一学期	「家庭基礎」の学び方，ホームプロジェクト，キャリア教育		1	○家庭科で何を学び，どのような学習活動をしていくのかを知る。 ○HPや家庭クラブの意味と進め方について理解する。	・学校全体の教育活動との関連 ・地域の社会福祉協議会等との連携 ・HPを常に意識させ後日実施
	第1章 自分らしい人生をつくる	1 生涯発達の視点			
		2 青年期の課題			
		3 目標を持って生きる	1	○固定的な性別役割分業意識を見直し，男女が相互に協力して家庭を築き，家族関係をつくる必要性を学ぶ。	・キャリア教育との関連

二学期	第7章 衣生活をつくる	1 被服の役割を考える	1	<ul style="list-style-type: none"> ○被服のさまざまな役割を整理する。 ○被服材料の特徴を理解し，組成表示・取り扱い絵表示・サイズ表示などの意味が分かる。 ○汚れ落ちの仕組みを理解し，被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ○平面構成と立体構成の違いを学ぶ。 ○正しい採寸方法を知り，自分のサイズが分かる。 ○被服製作の基本的事項を確認し，自分に合った被服の製作ができる。 ○布を使った伝統的な生活の工夫を知り，現代に生かす。 ○生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本を用いた実験・実習や視聴覚教材を活用する。 ・中学校での学習状況を把握する。 ・被服製作については，できるだけ個人の創意を取り入れる部分をもうける。
		2 被服を入手する	1		
		4 被服を作る	2		
		3 被服を管理する	2		
		5 衣生活の文化と知恵	1		
		6 これからの衣生活	1		
	第1章 自分らしい人生をつくる	4 人生をつくる	1	<ul style="list-style-type: none"> ○家族・家庭に関する基礎的な法律を学習し，現在の動きを知る。 ○家事労働・職業労働について知り，ワーク・ライフ・バランスについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフコースの参考になる各種例や資料を示し，集めさせる。
		5 家族・家庭を見つめる	1		
		6 これからの家庭生活と社会	1		
	第3章 高齢社会を生きる	1 高齢期を理解する	1	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢社会の現状と課題を理解する。 ○高齢期の心身の変化や特徴と，個人差が大きいことを理解する。 ○高齢者を支援する方法を具体的に学ぶ。 ○身近な高齢者との触れ合いの機会を探す。 ○高齢者に関する福祉について学び，高齢者を支える制度と課題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な高齢者と接触する機会をもつ。 ・高齢者に関する情報を調べさせる。 ・高齢者施設や家庭クラブ活動との連携 ・第4章との関連 ・「現代社会」「政治経済」との関連
		2 高齢者の心身の特徴	1		
		3 高齢者を支える	1		
4 これからの高齢社会		1			
第8章 住生活をつくる	1 住生活について考える	2	<ul style="list-style-type: none"> ○住居の機能を考える。 ○平面図の基礎知識を得て，間取りが理解できる。 ○ライフステージに合った住居を考える。 ○住居を選ぶ際，室内外の環境に着目し，安全性・快適性等を考慮する必要性を学ぶ。 ○バリアフリーの考え方を理解し，身につける。 ○気候風土に応じたさまざまな住様式が存在することを学ぶ。 ○住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し，持続可能な住生活とは何か考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅広告や住宅情報誌，インターネットなどを活用する。 ・住まいに対するイメージを広げる。 	
	2 住生活の計画と選択	3			
	3 住生活の文化	1			
	4 これからの住生活	2			
第6章 食生活をつくる	1 食生活について考える	1	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の食生活を振り返り，食生活の変化や課題について理解する。 ○日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での学習内容との系統性 ・食品成分表の見方を指導し活 	
	2 食事と栄養・食品	5			

		3 食生活の安全と衛生	1	<p>学的に理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 ○食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を知る。 ○青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ○食生活の自立に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び、日常食を作れるようになる。 ○日本や地域の食文化を見直し、食文化の継承について考える。 ○食料生産や食料問題、食の安全性など課題について考える。 ○生涯を通じて健康で安全な食生活を営む力を身につける。 	<p>用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の1日の摂取量を実物や見本などで示し、具体的に把握させる。 ・実習の計画性・安全性にじゅうぶん配慮する。
		4 生涯の健康を見通した食事計画	1		
		5 調理の基礎	6		
		7 これからの食生活	2		
		6 食生活と文化	1		
第2章 子どもと共に育つ		1 命を育む	1	<ul style="list-style-type: none"> ○出産前後の健康管理と子どもの発達の様子および発達段階を知る。 ○人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 ○遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 ○子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。 ○子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。 ○児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材の活用 ・子どもに関する情報を調べさせる。 ・幼稚園、保育園等との連携、家庭クラブ活動との関連 ・第4章との関連 ・「保健」との関連
		2 子どもの育つ力を知る	4		
		3 親として共に育つ	3		
		4 子どもとの触れ合いから学ぶ	1		
		5 これからの保育環境	1		
三学期	第4章 共に生き、共に支える	1 私たちの生活と福祉	1	<ul style="list-style-type: none"> ○一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。 ○多様な人々のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解し、ユニバーサルデザインを具体的に考える。 ○社会保障制度の理念と内容を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2・3章との関連 ・「現代社会」「政治・経済」との連携 ・学校家庭クラブとの関連
		2 共に生きる	1		
		3 社会保障の考え方	1		
第5章 経済生活を営む		1 職業生活を設計する	1	<ul style="list-style-type: none"> ○高校卒業後について、経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。 ○生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ○国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ○消費行動における自分の意 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活の家計の収支を認識させる。 ・クレジット払い等のリスクを実感させる。 ・日常のニュースから実際に起きている消費者問題を集めさせる。 ・持続可能な社
		2 計画的に使う	3		
		3 国民経済・国際経済と家庭の経済生活	1		
		4 消費行動と意思決定	1		

	5 現代の消費社会	2	<p>思決定の重要性とそのプロセスを理解する。</p> <p>○キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用，多重債務問題などを学習し，消費者として適切な判断ができるようにする。</p> <p>○消費者基本法を通して，消費者には権利と責任があることを理解する。</p> <p>○大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え，持続可能な生活ができるようにする。</p>	<p>会になるために自分でできることを考えさせる。</p> <p>・第9章との関連</p>
	6 消費者の権利と責任	1		
	7 これからの消費生活と環境	3		
第9章 生活を設計する	生涯を見通す	2	<p>○今までの学習を踏まえ，キャリアの視点から生涯の生活設計に必要な要素をまとめる。</p> <p>○自分の目指すライフスタイルを考え，高校卒業後の生活設計を立てる。</p>	<p>・関連するデータや視聴覚教材を用意したり，自分で集めさせる。</p>

科目名	生活産業情報	学年	1年	使用教材	【教科書】家庭情報処理 実教出版
		必修			
		単位数	2単位		
学習目標					
<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的、体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、生活産業の発展を担う職業人としての必要な資質・能力を身に付ける。</p>					
学習方法					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践的な学習活動を通して、情報処理の重要性について理解するとともに情報処理の基礎的技術を総合的にとらえていくことに努める。 ○ 生活産業で使用されているコンピュータや高度情報処理社会の基盤であるインターネットについての課題や問題点について学び、自分自身の関わり方を考え実践する。 					
学習評価					
○ 次の3つ観点に基づき、評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。					
知識・技術	生活産業情報の各分野における情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。				
思考・判断・表現	生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。				
主体的に取り組む態度	生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。				

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学 期	○ オリエンテーション	○「生活産業情報」を学ぶに当たって、学習の意義や内容、学習方法や評価の方法、コンピュータ教室の使い方、コンピュータ利用の注意事項について理解させる。 ○コンピュータの種類・活用方法・注意事項について理解させ、情報社会に対応できる知識を、身につけさせる。	情報に関連する法規等の概要、情報モラル、情報通信ネットワークの仕組み及びセキュリティ管理の方法や重要性について理解するとともに情報通信ネットワークに関連する技術を身につけている。また、その課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。さらに、得た知識を活用し、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 【学習状況観察】 【ワークシート】
	第1章 情報化の進展と生活産業		
	1節 情報化の進展と社会		
	2節 生活産業における情報化の進展		
	第2章 情報モラルとセキュリティ		
1節 ネットワーク社会の危険性			
2節 情報モラルとマナー			
3節 セキュリティ管理			

			【定期考査】 【自己評価】
2 学 期	第3章 生活産業における情報活用 第4章 情報機器のしくみ 第5章 情報通信ネットワーク 第6章 情報の処理・分析・発信 1節 日本語ワードプロセッサの利用 2節 表計算ソフトの利用 3節 画像処理ソフトの利用 コンピュータとプログラミング	○情報通信ネットワークやワードプロセッサ、表計算、画像処理、プレゼンテーションなど各ソフトウェアを活用し、衣生活分野での利用方法を理解させる。	○教科書、ワークシート、実習を通して、情報通信ネットワークやワードプロセッサ、表計算、画像処理、プレゼンテーションなど各ソフトウェアを活用し、パソコン実践操作について理解し、課題に主体的に取り組むことができる。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【自己評価】 【作品】
3 学 期	第6章 4節 プレゼンテーションソフトの利用 第7章 さまざまな分野における利用	○プレゼンテーションソフトを利用して、学習で得たことを発表させる。	目的や対象に応じたコミュニケーションの方法や、情報デザインについて課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。生活産業におけるコミュニケーションと情報デザインについて自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【自己評価】【作品】

科目名	生活産業基礎	学年	1年	使用教材	【教科書】生活産業基礎 実教出版
		必修・選必・コース選			【副教材】
		単位数	2単位		

学習目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生活産業や関連する職業について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知識及び技術】

(2) 生活産業や関連する職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力】

(3) 生活産業や関連する職業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

学習方法

- 生活と産業とのかかわり、生活産業の意義と役割、生活産業に関心を持ち、それらについての知識を習得する。
- 生活と産業とのかかわりや生活産業と職業に関する体験的・主体的な学習により、実践的な能力を身に付ける。
- 職業生活が自己実現につながることを理解し、家庭に関する学科より専門的な学習と卒業後の進路について考える。
- 生活関連分野のスペシャリストとしての必要な知識と技術を進んで習得しようとする意欲を身に付ける。

学習評価

- 次の3つ観点に基づき、学年末に5段階の評定に総括する。

①知識・技術	生活産業や関連する職業について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
②思考・判断・表現	生活産業や関連する職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。
③主体的に取り組む態度	生活産業や関連する職業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。

生活産業基礎 学習プログラム（年間学習計画）

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動 【評価方法】
1 学 期	<p>0 生活産業基礎を学習するにあたって</p> <p>1 「生活産業基礎」を学ぶ (1) 私たちの生活と「生活産業」 (2) 「生活産業」のスペシャリストになるために</p> <p>2 生活に対応した商品・サービスの提供 (1) 消費者ニーズの把握 (2) 商品・サービスの企画・開発及び販売・提供 (3) 関連法規生活産業現場見学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活産業基礎を学ぶ目的を理解する。 ・自分の生活とのかかわりから生活産業とはどのようなものか理解する。 ・「生活産業」の従事者に求められる資質や職業観について考える。 ・家庭科の専門科目の関連を理解し、3年間を見通した学習プランを立てる。 ・生活を支える産業の意義と役割を理解する。 ・社会の変化とライフスタイルとの関連について関心を持つ。 ・「豊かさ」とは何かを考え、価値観の現状について理解する。 ・産業構造の変化を理解する。 ・各分野ごとの発展状況を調べ発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ワークシート、実習を通して、生活と産業とのかかわりや生活に関連する職業について学習する。また、専門の学習への動機付けや卒業後の進路意識を深める。
2 学 期	<p>4 衣生活関連分野の産業と職業 (1) 衣生活の変化と生活産業との関わり (2) 衣生活関連産業の職業と資格</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活関連産業に関心を持ち、必要な資質に気付く。 ・衣生活関連産業の意義と役割を理解する。 ・人々のファッションに対する関心が高まっている実態を理解する。 ・マーケティングリサーチ等を基に、商品の企画や生産、販売方法に関心を持ち、必要な資質に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学習状況観察】 【ワークシート】 【考査】 【実習】 【課題】 【レポート】
3 学 期	<p>7 職業生活と自己実現 (1) 職業生活と生きがい (2) 将来の生活と学業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の適性を知り、将来の職業に必要な資質や能力を理解する。 ・将来のスペシャリストを目指した学習プラン作成のための、進路設計について理解する。 ・自己実現に合わせた専門科目の学習への関心を深める。 ・自己課題を明確にさせ「学習プラン」を手直しして総括する。 	